

浄水器・整水器市場に関する調査結果 2010

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて浄水器・整水器市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2010年4月～6月
2. 調査対象：浄水器・整水器関連事業者 30社
3. 調査方法：当社専門研究員による各事業者への直接面談及び文献調査併用

＜浄水器市場とは＞

本調査における浄水器市場には、「蛇口一体型浄水器（水栓部分に筒状のカートリッジが内蔵されているタイプ）」、「蛇口直結型浄水器（水栓の蛇口先端に浄水器本体を接続するタイプ）」、「ビルトイン型浄水器（キッチンシンクの下部に浄水器本体を設置し、水栓もしくは浄水専用水栓から浄水を吐出するタイプ）」、「据置型浄水器（キッチンの水栓から取水し、キッチンの上に設置された本体を通して浄水を吐出するタイプ）」、「アルカリイオン整水器（浄水した水をアルカリイオン水や弱酸性水に生成することが可能なタイプ）」が含まれ、メーカー出荷ベースにて算出した。

【調査結果サマリー】

◆ 出荷台数・出荷金額共に市場規模は縮小での推移

2009年度の浄水器・整水器市場規模は、メーカー出荷金額ベースで412億円であった。前年度比97.3%となり、市場は縮小傾向を続けている。ビルトイン型浄水器やアルカリイオン整水器といった高価格帯商品の需要減少が影響した。

一方、メーカー出荷台数ベースでの市場規模は10,116千台、前年度比97.4%であった。住宅着工数が70万戸台に落ち込んだことで、システムキッチンの出荷台数の落ち込みとともにビルトイン型浄水器の出荷台数が減少している。また、高価格帯のアルカリイオン整水器の出荷が落ち込み、事業撤退する事業者が続出したことも影響した。

◆ 蛇口一体型浄水器、卓上型浄水器が市場を牽引

市場規模全体が減少傾向での推移にある中、蛇口一体型浄水器は堅調な推移をみせている。現在は新築マンション市場での採用率が高い商品であるが、今後はリフォームでの既存住宅への採用率が高まる見込みである。また、卓上型浄水器が2007年度との比較で大きく成長している。大手浄水器メーカーの新規参入が相次ぐなど、市場規模の拡大が見込まれる領域である。

◆ 資料体裁

資料名：「2010年版 浄水器・整水器市場白書」
 発刊日：2010年6月24日
 体裁：A4判 174頁
 定価：105,000円（本体価格100,000円 消費税等5,000円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 浄水器・整水器市場動向(メーカー出荷金額ベース)

2009年度の浄水器・整水器市場規模は412億円(2008年度比97.3%、2007年度比84.1%)と推計し、依然として縮小傾向が続いているものの縮小幅は減少している。

タイプ別の推移をみると、蛇口一体型は横ばいでの推移、蛇口直結型は微増、ビルトイン型、据置型は減少推移、卓上型は2007年度比で大きく伸張、浄水シャワーは縮小、アルカリイオン整水器は微増となっている。

2. 浄水器のトレンド

今後の浄水器の方向性は、①浄水器を設備として見る場合と②浄水器を水の生成器として見る場合の2通りに大きく分けられよう。

①の浄水器を設備として見る場合においては、新築の住宅市場については蛇口一体型浄水器を中心に市場が形成されていくものとみる。ビルトイン型の浄水器と異なり、住宅価格を押し上げることなく低価格の住宅設備として新築住宅に付加価値を設けられることが最大の利点である。また、リフォームを軸にした既存住宅ストック市場についても同様に、高価格帯のビルトイン型浄水器や据置型浄水器よりも、低価格での導入が可能な蛇口一体型浄水器の普及を促進する動きがみられる。

一方、②の浄水器を水の生成器として見る場合においては、低価格帯の卓上型(ポット型)浄水器の普及が進んでいくとみる。低価格での購入が可能であり、カートリッジ交換の手間も簡単な設計となっていることが普及促進につながると見込む。また、参入企業が増えたことで商品ラインナップにもバリエーションが増え、冷蔵庫での収納が可能なコンパクトタイプや高除去カートリッジの採用など、簡易性だけでなく利便性と機能性も持ち合わせるようになっていることが大きく影響すると予測する。

これまで低価格帯の浄水器として一般的だった蛇口直結型浄水器は、今後縮小傾向が進むものとみる。これは設備としても生成器としても見ることのできる機種であるが、新築住宅のキッチン水栓への蛇口一体型浄水器の標準採用が特に増加傾向にあること、通常のキッチン水栓にもシャワー水栓が標準化されていることなどから、蛇口直結型の浄水器が設置できないキッチンが多くなっていることが影響している。

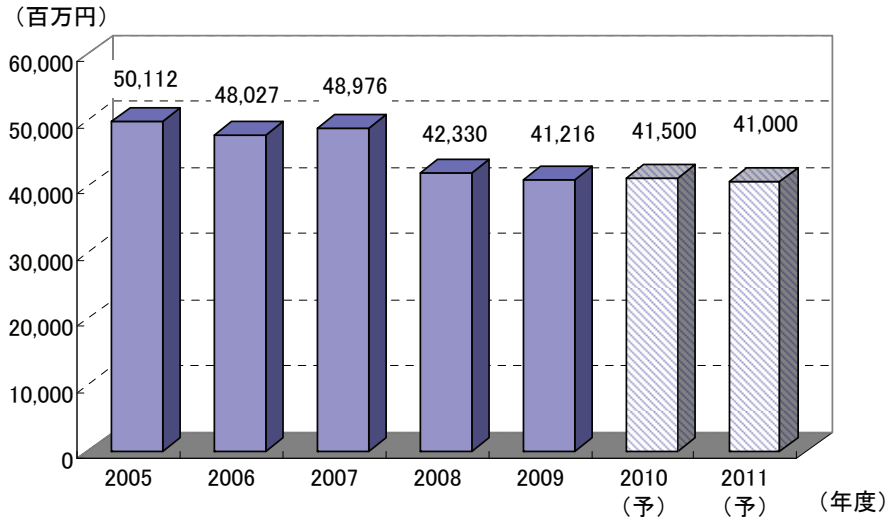
3. 将来予測

現在の浄水器・整水器市場において、各メーカー間では、従来からの浄水器本体の出荷動向の他に浄水器カートリッジの出荷動向にも期待感が強まり、蛇口一体型浄水器と卓上型浄水器がトレンド化している。

上記のいずれのタイプにおいても2~4ヶ月に1回程度がカートリッジの交換頻度となっており、定期的な浄水器の維持管理が消費者に定着すれば、既存浄水器ユーザーからの安定的な収益構造が確立されるためである。

浄水器本体の出荷台数に大幅な増加が見込み難い現況においては、今後浄水器のストック市場と捉えることのできる浄水器カートリッジの交換需要に注目が集まると予測する。

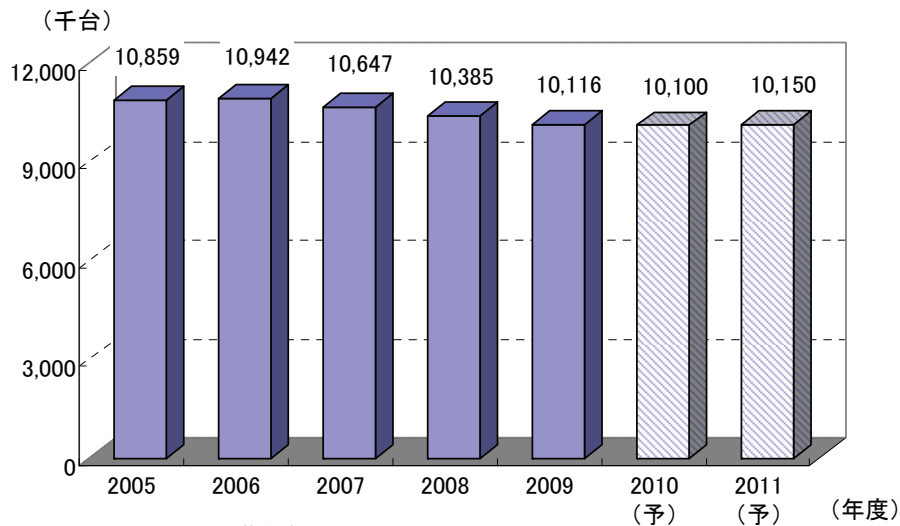
図1. 浄水器の市場規模推移(出荷金額)



注1: メーカー出荷金額ベース
注2: (予) は予測値

矢野経済研究所推計

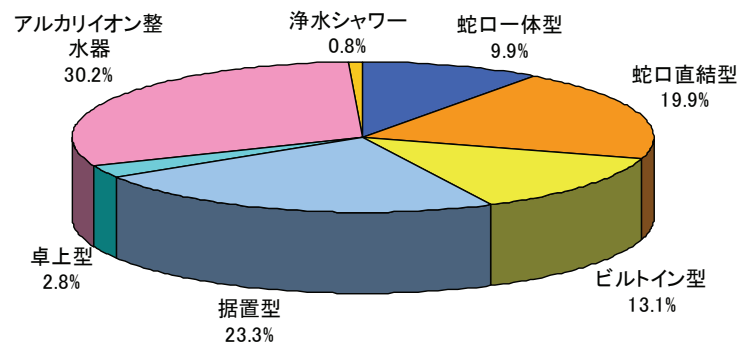
図2. 浄水器の市場規模推移(出荷台数)



注3: メーカー出荷台数ベース
注4: (予) は予測値

矢野経済研究所推計

図3. 浄水器タイプ別シェア(2009年度)



注5: メーカー出荷金額ベース

合計: 412 億円

矢野経済研究所推計